全仏

ZENBUTSU
JAPAN BUDDHIST FEDERATION

仏暦2568年8月
[2025年]

No.666

特集 終戦から80年 戦争を語り継ぐ②
～沖縄戦を聞く、祈りを受け継ぐ～

沖縄県公文書館

沖縄県公文書館所蔵

特集　終戦から80年 戦争を語り継ぐ②
～沖縄戦を聞く、祈りを受け継ぐ～

2025年、第二次世界大戦が終結してから80年の歳月が過ぎました。その間、日本は幸運にも戦争に巻き込まれることはなく、戦後生まれの人口が9割近くを占めるようになり、今日、戦争の記憶は遠い過去のものとなりつつあります。この80年間に、先の戦争をめぐる歴史的事実や被害の規模については、あまたの研究が積み重ねられてきました。無論、そうした客観的な事実を積み上げることは重要です。しかし、戦争の実態はむしろ主観的な個々の経験の中にあります。砲弾が飛び交う中で、軍隊という圧倒的な力の前におびえ、逃げてもなお家族や知人の死を目の当たりにし、人を殺すことを迫られ、あるいは自らの死を迫られる……。そのような過酷な状況に人々を追い込むのが戦争です。私たちが戦争を二度と繰り返さないためには、戦火を生き抜いた人の声に耳を澄ませ、その痛みや苦しみに思いをめぐらし、戦争で起こる凄惨な状況を、可能な限り自分ごととして捉える必要があります。

戦争を体験した世代がますます減りゆく現在、そうした戦争の実態を直接聞くことのできる機会もまた減りつつあります。私たち全日本仏教会は、戦争を体験していない世代が「戦争を語り継ぐ」ことこそが、これからの時代においては極めて大切になると考え、前号では広島、長崎の原爆を語り継ぐ人々に焦点を当てました。今号では、沖縄戦の記憶に直接耳を傾けます。そして、僧侶は戦争をどう受けとめ、どのような活動してきたのか。そのような戦争の体験者と僧侶の対談です。

一人目は、金城正篤（きんじょうせいとく）氏。琉球大学名誉教授である金城氏は昭和10年、沖縄県糸満市潮平に生まれました。沖縄戦の時は、小学4年生で、地元潮平にある権現壕において、その地の住民500名余りとともに米軍に投降することで沖縄戦を生き延びました。なぜその壕が「権現」と呼ばれるのか。そして投降したあと、住民たちはどのような運命をたどったのでしょうか。

二人目は、吉川嘉勝（よしかわよしかつ）氏。吉川氏は、那覇市から西方に約30km離れた渡嘉敷島の出身です。昭和13年生まれで沖縄戦時は小学1年生でした。今では美しいビーチが観光客に人気の渡嘉敷島ですが、沖縄本島上陸に先立って、米軍が橋頭堡（きょうとうほ）を確保するために最初に戦場になった島でした。吉川氏は、その際に発生した「集団自決」を生き延びました。集団で自決するという、戦争という状況でなければとても考えられない異常な事態は、いかなる環境のもとで発生し、どのようなものだったのでしょうか。

そして、お二人に沖縄戦の実態をお聞きしたあと、沖縄国際大学で非常勤講師をつとめる川満彰（かわみつあきら）先生に、沖縄戦の背景をお聞きします。戦後の沖縄県が置かれた苦難の原因は、まさに沖縄戦であったことが、ここで分かるでしょう。

その後、二人の僧侶に話を伺います。

一人目は、真言宗豊山派、沖縄山長谷寺の岡田弘隆（おかだこうりゅう）住職です。戦後の昭和21年、東京生まれの住職は、父であった先代住職を戦争で早くに亡くした縁で、ご自身も戦争に関心を持ち、戦没者の慰霊につとめ、沖縄に新たなお寺を建立するにいたりました。この度、対談の場をお貸しいただき、戦争体験者との繋がりを作っていただきました。

二人目は、日蓮宗、琉球山法華経寺住職の伊東政浩（いとうせいこう）住職です。伊東住職は、全日本仏教青年会の理事長の職にあった時、若手僧侶たちに沖縄の慰霊行脚を呼びかけ、その活動を今でも続けています。

この対談を通して、僧侶として今後、戦争とどう向き合い、実際に戦争が起こらないようにするにはどうしたらよいか、一人ひとりが考えるきっかけになれば幸いです。

全仏 666 号

CONTENTS

特 集

インタビュー
終戦から80年 戦争を語り継ぐ② …… 4
～沖縄戦を聞く、祈りを受け継ぐ～

加盟団体からのお知らせ

【浄土宗】
増上寺所蔵の三大蔵、ユネスコ「世界の記憶」国際登録決定 …… 16

残暑協賛 …… 18

本会からの報告 …… 28

- 第36期第3回国際交流審議会
- 第12回代議員会議
- 第36期第３回支援検討会議
- 第36期第４回社会・人権審議会
- 第４回法人創立70周年記念事業実行委員会
- フランシスコ教皇弔問記帳
- 第103回WFB執行役員会議 in ベトナム、並びに国連ヴェーサク祭
- 第47回理事会
- 第５回法人創立70周年記念事業実行委員会
- 「救援基金」寄附者一覧
- 「賛助会員」新規入会者一覧

表紙写真：沖縄県公文書館所蔵

特集

終戦から80年 戦争を語り継ぐ②

～沖縄戦を聞く、祈りを受け継ぐ～

和田学英（司会）

全日本仏教会事務総長の和田学英と申します。

本日は、沖縄戦の体験者として金城正篤さんと吉川嘉勝さん、沖縄戦の概説をお話しいただく川満彰さん、そして僧侶として岡田弘隆さんと伊東政浩さんにお集まりいただきました。皆さま、お忙しい中ありがとうございます。沖縄山 長谷寺の岡田住職には場所をお貸しいただきましたことも御礼申しあげます。

さて戦後80年が過ぎ、だんだんと戦争のことを知っている人が少なくなっています。その中でもロシアとウクライナの戦争が始まったり、イスラエルとイランの戦いが始まったりと、21世紀になってもなお戦火は消えません。幸い日本は、戦争に巻き込まれておりませんが、世界情勢がいつ変わるかわからない状況になっております。今日は、岡田先生に力添えをいただきながら、沖縄戦に関して皆さま方からいろいろなお話を承り、その体験談を私どもでも語り継ぎ、少しでも平和に役立つようにしたいと思います。よろしくお願いします。

会場の沖縄山 長谷寺（沖縄県糸満市）

まずは、この長谷寺のある糸満市潮平出身で、「権現壕」を生き延びられた金城正篤さんにお話しを伺いたいと思います。

金城正篤

沖縄戦は突如として起こったのではなく、満州事変から日中戦争、そして太平洋戦争という、15年にわたる戦争の最後の戦場であり、日本では地上戦が行われた唯一の土地でした。

1941年、昭和16年に国民学校ができて私は入学しました。沖縄の慶良間諸島に米軍が上陸したのは、1945年3月の末。その年の4月には小学校4年生になり、4月1日に本島に米軍が上陸して以来、我々の村である潮平に「権現壕」という、500人くらいが入れる大きなガマ（洞窟）があり、そこで過ごしました。

小4ですから、覚えているのは戦争の鮮明な記憶というよりも恐怖心です。この潮平から見ると、沖合には十重二十重に米軍の軍艦が取り巻いていて、艦砲射撃が撃たれると、うちの村を飛び越えて遠くへ行く。潮平も艦砲射撃は受けましたが、内陸の方へ弾が飛んでいったのが、大方だったような気がします。そうして4月から過ごし、6月14日に潮平の500人余りの人たちは、一人の犠牲者もなく、無傷で米軍の捕虜になりました。

これにはいろいろな経緯があったわけですが、米軍との戦闘が激化してくると、潮平にも日本軍が少数ながら駐屯していて、夜間に大砲をガラガラと車で引っ張って訓練をしていました。この部隊の一つの陣地として、潮平の西の、今は小学校の敷地にある小高い土の山に防空壕を作るため、軍隊が穴を掘っていたんです。我々は掘った穴の土を外へ運び出したり、崩落を防ぐための柵に使う松の皮を剥ぐ作業に協力しました。小学生もみんなです。そのような陣地づくりに強制的に動員された記憶があります。そういう中で時々、空襲警報が鳴りました。つまり常時、壕に避難しているんじゃなくて、最初の頃は、普段は家で、警報が鳴ると壕に避難する生活でした。

そういう時に、ある空襲警報で壕へ避難しました。一晩ぐらい時間が経ってでしたか、家へ戻ってみたら、馬がいない、ヤギがいない、ニワトリがいない。証拠はないけれど、日本の軍隊が持って行ったんじゃないかと子どもながらに思いました。沖縄守備の第32軍は、食料も物資も現地調達が原則だったようなので。

ある時、軍曹が壕を訪れて、区長をしていた父に、ここは軍隊が使用するので直ちに出ていくようにと命令しました。父は何百人を今すぐ出すわけにいかないので、みんなと相談するから数日待ってくれと言ったけれども聞かない。結局全員、防空壕を出たことがあります。しかしその頃は戦闘が激化している時でしたから行く所、隠れ場所がない。ですから私は隣の村の民家に空き家があり、近くに防空壕もあったのを知っていたので、おそらく一日か一晩くらいいました。しかし、そこでは食事もできないので、再び壕に戻りました。同じように潮平の村の何百人が一斉に壕に戻ってきたら、やはり、ここは軍隊が使うから出ていけと言われたんだけれども、軍隊は一人もいない。ひょっとしたら、また空襲警報の時と同じように、壕内の食料や物資を持って行ったんじゃないかと勘ぐる以外ないような事態が起こりました。4月1日に沖縄本島に米軍が上陸してから、ほとんど毎日でした。

捕虜とされたのが6月14日。当時は、カレンダーがあったわけじゃないんですけれども、「糸満ハーレー」という海の恵みへの感謝祭が毎年あって、そ

金城正篤（きんじょう せいとく）

昭和10(1935)年生まれ。沖縄県糸満市潮平出身。
琉球大学名誉教授。専門は沖縄近現代史。
沖縄戦時は10歳、小学校（戦時中は国民学校）4年生。
糸満の「権現壕」にて沖縄戦を生き延びた。

れが旧暦の5月4日。捕虜にされた日は、その翌日の旧暦5月5日と覚えています。500人近い人たちが、一人の犠牲者もなく、全員米軍の捕虜になりました。命が救われたということで先輩たちが「権現壕」と名前をつけて、今、潮平では年中行事として、糸満ハーレーの翌日に、慰霊祭ではなくて感謝祭をしています。

これは沖縄では特異です。南部では多くの人が犠牲になりましたから、沖縄戦が終結した6月23日の県の慰霊の日も含めて、ほとんどが慰霊祭です。しかし潮平の権現祭は感謝祭です。お酒やお菓子を壕に供えて、みんな集まって感謝を捧げています。

捕虜にされた後は米軍に潮平の海岸に連れていかれて、沖合に泊まっている軍艦に運ばれ、中部の読谷村の北谷（ちゃたん）という所の収容所に入れられました。次に安谷屋（あだにや）という所に1カ月ぐらい収容されて、その後、また北部の金武町（きんちょう）の中川という所へ連れて行かれました。最終的に自分の村へ戻ってきたのは、戦争が終わって半年ぐらい後になってからではなかったかと思います。

戦争体験というのは、切り口を探せばいくらでも話題が出てきますが、とにかく大まかな私の小学生だった時の戦争体験はこのようなものです。

岡田弘隆

壕を追い出されて、もう一回また日本軍が来て、その時に区長さんだったお父さんと軍曹のやり取りの話を以前金城さんはされていました。それを簡単にお願いできますか。

金城正篤

目撃者によって若干話が違うんですが、軍曹が父に立ち退きを命令してもなかなか聞かないので、刀を抜いて自分の腕に傷をつけて、茶碗に血を溜めて、それを父に飲むように強制したというエピソードがあります。目撃した人によってニュアンスが違いますし、私は父から直接聞いていないので、あまり触れないようにしていますが、そういうことがあったのは事実のようです。

岡田弘隆

潮平権現壕の話は、沖縄戦では珍しく、避難していた人たちが、ほぼ全員助かった稀な事件です。他の壕ですと、大体日本軍と避難民が一緒にいました。そういう所では米軍から攻撃を受けて、子どもが泣いたりすると殺せというようなことがあって、たくさんの人が亡くなっています。当時は「軍民共生共死」という言葉がありました。軍と民間人が共に生き、共に死ぬという意味です。

金城正篤

真夏ですから米軍の兵士たちが近くの小高い丘に、裸でウロウロしているのが見えていました。権現壕の中に、手榴弾が投げ込まれたこともあったんですが、ほとんど入り口で止まりました。基本的には、抗戦する日本の軍隊がほとんどいなかったために、米軍もムキになって戦いを挑んでこなかったという事情があったんじゃないかと思います。

和田学英

沖縄では慰霊祭はよく聞きますが、感謝祭が行われているというのは初めて聞きました。非常に貴重なお話しをありがとうございます。

続いて、渡嘉敷島にて「集団自決」を経験された吉川嘉勝さま、よろしくお願いします。

吉川嘉勝

私は昭和13年、1938年生まれで戦争の時は1年生に上がる年でした。今日は、渡嘉敷島（とかしきじま）での私の戦争体験、渡嘉敷島での集団自決の話をいたします。

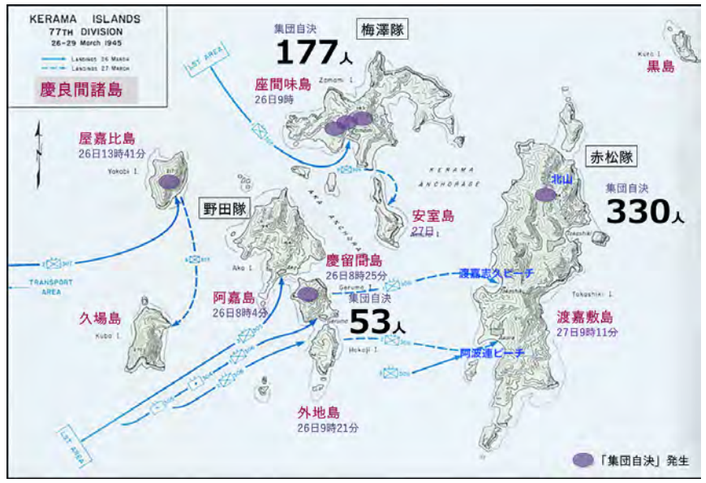
沖縄本島への攻撃に先立って、3月26日に米軍は沖縄本島の東へ30キロの所にある慶良間（けらま）諸島への攻撃を開始します。26日に座間味（ざまみ）島に上陸。この時、最初の集団自決が起こります。座間味村では住民ではなく、役場職員が集団自決をして全員が亡くなりました。

吉川嘉勝（よしかわ よしかつ）

昭和13（1938）年生まれ。那覇市から西に約40kmほどの所にある慶良間諸島の渡嘉敷島出身。元中学校の校長先生。
渡嘉敷島で発生した「集団自決」を生き延びた。

27日には渡嘉敷島に上陸します。その日の晩、隠れている防空壕に巡査から北山（ぺーちゃま）（※沖縄では北をニシと言う。ちなみに東西南はアガリ・イリ・フェーまたはハエ）に集まれという命令がありました。みんな壕から出て北山に歩き出しました。その光景をよく覚えています。どしゃぶりの雨の中、渡嘉敷はカツオ漁が盛んですから持てるだけのカツオ節、黒砂糖。母はやめとけと言ったんですが、私もカバンの中に入れて歩きだしました。28日に北山に集まると集団自決が始まって、おそらく600名ぐらい来たと推測するんですが、そのうち330人が亡くなりました。

慶良間諸島の地図を見ると、渡嘉敷島の集落から4キロ離れた阿波連（あわれん）ビーチと渡嘉志久（とかしく）ビーチから米軍が上陸してきたことがわかります。阿波連ビーチに流れ込む川の近くに、日本軍は特攻艇の秘匿壕を作っていました。しかし、一隻の特攻艇も出さずに、日本軍は渡嘉敷島の北山に防空壕を掘らせて、そこに逃げました。集団自決の場所はそこから200メートル上にあります。どうしてここにみんなが集まったかというと、巡査が日本軍守備隊の赤松隊長に住民はどうしますかと聞いた時、守備隊を各壕に派遣して、住民たちを北山に集めろと。人々は、日本軍がそこに行っていることを分かっていますから、そこなら日本軍が守ってくれると思ったわけです。雨の降りしきる中を、気がついたら自決場に着いていました。



手榴弾はすでに住民に配られていました。最初に手榴弾の爆発が起こったら、パンパンパンとあちこちで続きました。集団の自決が始まったんです。守備隊員がその自決を助けている。彼らは自分たちは最後に米軍をやっつけてからと、仲間を殺すのを助けて結局、終戦後を迎えたのでしょう。こういう人たちが北山のことを思い出したくもない、語りたくもないというのは当然です。生き残った島の人たち、例えば私の義兄もそうですがしゃべらないんです。

金城重明先生という方がいるんですが、先生はお兄さんと2人で、ここでお母さんと弟妹に手をかけます。戦後の厳しく苦しい状況で、やがてクリスチャンになって、『集団自決を心に刻んで』という本を出しました。ところが先生以外、慶良間諸島での集団自決を語る人はほとんどいませんでした。集団自決のことを歴史教科書に明記するよう活動している「9・29県民大会」というのに呼ば

れて、私も自分の集団自決の体験を語るようになりました。

どうして集団自決が起こったか。私は島に日本軍が来たからだと思っています。というのは日本軍がいないところでは集団自決はありません。それから赤松隊長が住民を北山に集めたからです。渡嘉敷島ではこの北山以外では集団自決は起こっていませんから。

そして、その背景には鬼畜米英という教育がありました。また沖縄人差別など歴史的ないろいろな要素もあります。本土でもし同じことがあったら同じことをしたでしょうか。

最後に、どのようにその自決場を生き延びたかを話したいと思います。北山で手榴弾の爆発が起こっていた時に、16歳の兄貴が手榴弾をもらってきて、「じゃあ僕らもやるよ」と言いました。そこに手榴弾を持っていない人たちが集まってきていました。十数名いたような気がするんですが、手榴弾を爆発させようとして、信管を抜くのですが爆発しない。2つ貰っていましたが2つ目も爆発しませんでした。

その時でした。母がパンッと立って、こう言いました。「皆さんは逃げる準備をしなきゃいけない。人間、死ぬのはいつでもできる」。これを方言で言いました。当時は方言を使ったらスパイだと言われた中で、母がそう言ったため、みんな荷物も持たずに逃げたんです。そのために僕らは生き残った。私はその母の行為に非常に大きな誇りを感じたので、金城重明先生の後に、こうして喋るような勇気をもらいました

その後、山中生活をしていろいろなことがあったんですが、現在までこうして生き延びました。人生で何かあった時、母ならこういう時どうするだろうかといつも思って生きてきました。

渡嘉敷島では自決場で亡くなった人と、島の下の方の戦場で50名くらいが亡くなっています。その内訳を調べてみたら、男は136人なのに女は244人でした。今、島では白玉之塔を建てて祈りを捧げています。

岡田弘隆

その後はご家族で島の中に隠れていたんですよね。それはいつ頃まででしたか。

吉川嘉勝

多くの人は8月中、少数は9月に日本軍が降伏する時までだったと思います。

岡田弘隆

吉川さんは逃げる途中でお父さんが亡くなっているんですよね。

吉川嘉勝

逃げる途中で、近くに艦砲射撃の爆弾が落ちて父は頭をやられて吹っ飛ぶ。私は8人兄弟の8番目で、22歳の姉に引っ張られてパッと逃げたんですが、すぐ前は当時9歳の姉で、その前に親父がいたんですが、親父の頭から出た血でこの姉は体中血だらけでした。

これもよく覚えているんですが、この姉はお父さん、お父さん、と背中をさすっていました。もう亡くなっているわけですから、どうしようもないと思ったんですが、戦争とはそういうものです。いつか自分たちもこうなるかもしれないと思いました。戦後は父親を亡くした母子家庭で厳しかったです。

岡田弘隆

お父さんが避難中に艦砲射撃でやられて首が飛んじゃったと。それを知らないで逃げた人もいるし、気がついて一生懸命助けようとした人もいる。すごい話です。

和田学英

家族でさえ手をかけなければならなかった方のお話し、またそうした極限状況にありながらも、生きることの大切さを気づかせてくれた勇気あるお母さまのお話し。体験した方でないと想像を絶するような現実が戦争においては発生することがよくわかるお話しでした。ありがとうございます。

続いて、そのような沖縄戦がなぜ起こったのか、沖縄国際大学の川満彰先生にお話しいただきます。

川満彰

沖縄国際大学の非常勤講師、川満彰と申します。専門は平和思想です。今、お二人の話で、戦争の実態は伝わったと思うので、沖縄戦の全体像を説明したいと思います。

なぜ住民が追い込まれていったのか、それは日本軍が沖縄を守ることを目的としていなかったからです。本土決戦に備えて、沖縄で持久戦をやるように言われた。これは防衛省の資料にも書いてあります。ただ、戦争は軍隊と軍隊の喧嘩ですから、日本軍が沖縄で戦争をしようと言ったって、米軍が台湾の方が良いと言ったら、沖縄では戦争になりません。ところが、台湾は九州よりも小さいけれど富士山よりも高い山がある。そこに上陸作戦をしようとしたら、100万人規模の軍隊が必要だと米軍は見積もりました。それだけの軍隊を集めるとしたら、ヨーロッパからも連れてこないといけない。それは不可能。沖縄は台湾よりもだいぶ小さく平坦で、本土攻撃のための基地を作るにも手頃です。そのために沖縄を狙ったということになります。米軍が沖縄戦に投入した兵力は支援部隊も含めて54万8千人でした。米軍が短期決戦を考えている一方、日本軍は持久戦。そこが違うだけで、お互いに沖縄で戦争をしようということになります。目的は違うけれど、お互いにとって沖縄が一番都合の良い場所になってしまったわけです。

では、なぜ住民に大きな被害が及ぶようになったのか。これは日本政府の思想によって被害が拡大したと私ははっきり言います。日本の戦争に関しては軍部が前面に出てきます。しかし、政府がなかなか表に出てこない。実際には政府が大きな戦争責任を負っていて、彼らが考えたのが出血持久作戦です。いわゆる本土を守るための捨て石。当時の戦陣訓では、持久戦は一人もいなくなるまでやりなさいと。つまり玉砕です。この作戦が沖縄の人たちを巻き込みました。

先ほど岡田さんが、「軍民共生共死」と言いましたが、これには「官」が抜けています。正しくは「軍官民共生共死」です。第32軍の司令官、牛島満は1944年の8月に沖縄に入って、そのようなことを言っていますし、間諜（かんちょう）、いわゆるスパイに注意すべしということも言っています。これは兵士も住民も捕虜になるなと明確に言っているわけです。

金城さんの話にもあったように、子どもたちが一緒に陣地作りをしています。その中で、食料庫はどこ、兵士が何名というのは、子どもたちでも知っています。だから、その子どもたちが捕まって銃を向けられたら、一発で喋ってしまうだろうと。軍の機密情報が漏洩しないよう上層部は徹底していて、日本兵はもちろん住民も捕虜になるなよと。11万近くの日本軍も、住民を絶対に捕虜にさせないと意思統一されています。

だから吉川さんが言ったように、集団自決が起きたのは島に日本軍がいたからです。軍が住民を北山に集め、手榴弾を配った。これは自決を促

川満彰（かわみつ あきら）

昭和35（1960）年生まれ。沖縄国際大学非常勤講師。
専門は平和思想。『続・沖縄戦を知る事典』（2024 吉川弘文館）の編著者。

しているわけです。捕虜になったら困るから。そういった意識は住民にも浸透します。しかもヒージャーミーを見たことがない。ヒージャーミーとは「山羊の目」の意味ですが、アメリカ人のことを指します。山羊の目は夜見えないから、夜突けばいいと学校の先生も教えています。恐怖心が植え付けられて、米軍が上陸をしてきた場合は、死ぬ以外考えられない状況に追い込まれていきます。そういう中で、日本軍がいなくても集団自決が起こった事例もあります。誘導されたというか、マインドコントロールされた背景があるからでしょう。だから「日本軍によって暗黙のうちに強制された集団自決」という言い方ができます。

54万8千対11万人の戦争ですので、沖縄戦は基本的には全て米軍の思い通りに進みました。その中で米軍は何を考えていたか。まずは本土決戦のための基地作りです。そのために直接中部から入ってきました。今の嘉手納基地、当時は陸軍の中飛行場。そして北飛行場を奪取して基地を作ります。そこから沖縄本島を北と南に分断する。一方で日本軍が1日でも長く持久戦をするには、南部のガマを使った方が有利にできる。だから南部で戦闘をしたかった。戦争では相手が向こうに行けばそちらに行きます。日本軍が南部でカモンって言っている。米軍もわかったと。だから南部が非常にひどい目に遭いました。

一方で分断された北部。米軍にとっては基地を作るために、そして戦争を遂行するために住民が邪魔です。中部にも南部にもたくさんの住民がいるとあらかじめわかっているから、北部に収容所を作り、住民をそこに押しやっていく。金城さんが「金武町に行った」と言っていたのは、米軍側にそういった理由があったからです。そうした人たちが1945年の7月末時点で、およそ33万人です。沖縄戦では4人に1人が亡くなったと言われますが、逆に生き残った4人中の3人は収容所に入れられました。

太平洋側の集落は基本的には焼きません。33万人分ものテントを持って来るのは不可能だから既存のものを使う。私が調べたところでは一番多い所で200数名が一屋敷に押し込まれて住んでいました。彼らが解放されていくのが1945年の10月末ぐらいです。沖縄にとっての終戦は、本土の8月15日とは全然違います。それは基地を建設しているからでした。結果的に収容所がたくさんできます。現在のキャンプシュワブは当時の大浦崎収容所です。食料の配給は一応あります。しかし、とてもじゃないけど足りない。だから常にお腹がすく。そんな状態が生まれました。

岡田弘隆

収容所によって、食料が届いたり、届かなかったりすることもあったとか。

川満彰

いろいろなパターンがあって、結局、マラリアと栄養失調で亡くなる人がとても多かったのが収容所です。

民間人捕虜収容所

北部は大宜味村の白浜というところがあります。ここでは日本軍の敗残兵が山の中に隠れていました。30数名の住民が米軍に収容される途中で彼らに見つかって、トラックから降ろされて虐殺が起こっています。白浜区というのが今の名前ですけど、渡野喜屋が昔の名前でした。しかしその名前を思い出したくないから、戦後名前を変えたという事例もあります。

中南部は米軍基地がどんどんできていきます。それらは沖縄戦をしながら作られていきました。普天間飛行場の外れに伊佐浜という場所があるんですけれど、ここに安仁屋という集落がありました。沖縄の人たちが収容所から開放されるのが10月末。だけど安仁屋の人たちは自分の家に戻ることができませんでした。翁長前沖縄県知事が、自分たちのアイデンティティを取り戻す戦いだと言ったのは、そういうような意味が込められています。

和田学英

なぜ沖縄戦に到ったのか。よくわかる説明でした。ありがとうございます。

続いて、東京のお寺の住職でしたが、19年前に沖縄に来てお寺を建てられた、沖縄山 長谷寺の岡田弘隆住職に、戦争と沖縄についての思いをお聞きできればと思います。

岡田弘隆（おかだ こうりゅう）

昭和21（1946）年生まれ。沖縄山長谷寺住職（真言宗豊山派）。東京都江戸川区出身。
父を戦争で亡くした影響で戦没者の供養をつとめてきた。
60歳の時、夢枕に現れた観音さまのお告げに従って沖縄にお寺を作った。

岡田弘隆

最初に私の父親の話をさせてください。父が徴兵されたのが昭和19年の9月で、28歳でした。通常は20歳で徴兵でしたが、その時はあまり体が丈夫でなかったので徴兵されないでいました。28歳の時、父は真言宗豊山派の東京江戸川区にある寺の住職でしたが、東京に豊山中学校というのがあり、そこで国語科の教師をしていました。昭和19年に入り日本が負け戦になって、根こそぎ動員になった時に徴兵されたんです。

それで広島の呉に陸軍の暁部隊という輸送部隊があり、そこに集結して沖縄戦に向かいました。戦争末期の小さな船団で、和歌山県の南端の串本の漁船も船員ごと徴用して、まだ16歳ぐらいの若者も含まれていたそうです。小さな漁船の先端に機関銃だけ据え付けただけの船で沖縄に向かいます。鹿児島県に山川港という所がありますが、途中そこに集結したそうです。もう昭和20年3月頃ですから、制海権も制空権も米軍が握っている時期です。ですから、見つからないように夜な夜な船を進めて、奄美大島まで辿り着いたようです。奄美大島の沖合で米軍に発見されて機銃掃射され撃沈されてしまい、甲板にいた兵隊などは即死したらしいんですけれど、父は何とか助かって奄美大島まで流れ着き、加計呂麻島にあった特攻部隊に所属して終戦までそこにいることになりました。

加計呂麻島の方たちにも世話になって、10月頃に本土に帰る船が間に合うようになり、鹿児島、広島、大阪を経由して、昭和20年の10月頃、江戸川区の自分のお寺にようやく着きました。この時は、寺が完全に丸焼けになっていて、家族は埼玉県熊谷市のお寺に疎開していました。そこで父は家族に合流し、その後、昭和21年7月に私が生まれました。

しかし、父は昭和23年12月に亡くなります。その時は戦争ではなく病気が原因とのことだったんですが、母がこれはやはり戦争が原因で亡くなったと、その証明書をもらうために十年以上も奮闘して、その時に同じ部隊だった人たちと手紙のや

り取りをしたりして、最終的に軍隊の時の病気が元で亡くなったと認定されました。その時に母が言っていたのは、軍隊で亡くなったのではないとするなら犬死と同じだと。これでやっと日本政府から認められて、死んだ人が浮かばれるというようなことです。

東京のお寺は丸焼けになっていたので、母が中心になって仮のお堂を建てたりして、私が小学校1年の時に戻り、お寺の活動を再開するようになりました。そういった経緯で、私は子どもの頃から戦争が頭にありましたから、10代ぐらいから檀家さんの中で東京大空襲で亡くなった方を調査して名簿を作るなど、戦没者の慰霊に関わるようになりました。それだけでなく、ご縁があって広島長崎の原爆で亡くなった方の追悼もしようと、追悼碑を江戸川区立の公園に作ったりというようなことを続けてきました。

今79歳になるところですが、60歳になるちょっと前に、夢枕に観音さまが現れて、あなたは沖縄に行って長谷寺を作り、三十三観音霊場を作りなさいというお告げがありました。それから沖縄に通ってくるうちに、城間宝石店を営む城間巌・ミツ夫妻とご縁があってここを譲っていただき、お寺にしたという経過でございます。

そもそも夢のお告げが奈良の長谷寺の観音さまのお告げでしたから、ここに長谷寺を作ろうということで、こちらのご本尊さまは、長谷寺型の十一面観世音菩薩と言い、ご本体が3メートル以上あります。京都の大仏師の松本明慶さんに作っていただきました。ですからこちらに来てから、ともかく沖縄戦の戦没者のご供養をしようと、戦争の遺跡をお参りさせていただいたり、このお寺では県の慰霊日である6月23日を中心にご供養をずっと続けてきました。

沖縄山長谷寺の本尊、十一面観世音菩薩

今回、全日本仏教会からこのような特集のお話しがありましたが、沖縄戦の証言をする方は大変少なくなってきていますから、このような縁をいただいて本当に良かったと思います。全日本仏教会として、ぜひ沖縄戦の悲惨な体験を全国のお寺や檀信徒の皆さん方に伝えていただければ本当にありがたい。亡くなった方々が願っているのは、自分たちが戦争で亡くなったことを広く知ってもらい、それを通じて平和な日本を作ってもらいたいということだと思います。

今、ウクライナとロシア、イランとイスラエルとガザ地区の戦争はまだずっと続いております。日本を取り巻く状況も非常に危ないと言われていますが、戦争にならないようにするにはどうしたらいいかを考えていただきたいと思います。台湾有事や北朝鮮など、沖縄を含む南西諸島、奄美大島から一番西の与那国島まで、自衛隊の基地がどんどん作られている状況です。先ほど皆さんの話にもありましたが、日本軍がいなかったところでは集団自決はありませんでした。日本軍がいるところには米軍が艦砲射撃や上陸をしていますから、今、自衛隊基地ができているところは、戦争が起こる可能性が一番大きいということです。

私たちの力で戦争にならないようにと言ってもなかなか難しいんですけれども、そのために全日本仏教会や、我々一つ一つのお寺に何ができるかを皆さんでも考えていただきたいと思います。例えば中国仏教協会と全日本仏教会は交流がありますので、それを通じてどうしたら戦争にならないでいけるか。向こうの国に知り合いのお坊さんや人がいるとなれば、やはり違うのではないかと思います。戦争にならないためにどうしたらいいか。私個人や地域で何ができるのかというのが、私の本当に大きな悩みです。

また戦前の仏教界の統括団体が、日本の戦争や、また日本軍が海外に出ていった時に、全面的に協力してきた歴史があります。戦争に協力しない、政府の方針に協力しないというのは大変なことですけれども、全日本仏教会としても、個々の宗派や集団にしても、政府との関係は常に考えないといけないと思っております。

和田学英

ありがとうございました。戦争に行かれ、戦後それが原因で亡くなられたお父さま。そのために岡田住職自身も戦争で亡くなられた方の供養をずっとされてきて、この沖縄にお寺を建てられるまでに到った。そして全日本仏教会や個々のお寺が平和に向けてどうすべきか課題をくださいました。続いては琉球山 法華経寺の伊東政浩住職にお願いします。

伊東政浩

那覇市の安里（あさと）にある琉球山 法華経寺の伊東政浩です。現在54歳。戦後だいぶ経ってからの人間ですが、私の師匠である父は昭和15年横浜生まれですので、横浜大空襲の話を聞かされてきました。幸いにもお寺は爆撃を免れましたが、裏の防空壕が避難所になり、周りの家は全部焼かれてしまったので、お寺を開放し、みんな本堂で生活することになり、長い方で3年近く住まれた家族もいたと聞いております。母方も横浜で別の場所に避難していて、祖母がここは危ないかもと防空壕から出た後にそこに爆弾が落ちて、命が助かったということもあり、大空襲で母方か父方が命を落としていたら、私自身が存在していなかったことになります。

伊東政浩（いとう せいこう）

昭和46（1971）年生まれ。神奈川県横浜市出身。
琉球山 法華経寺住職（日蓮宗）。
全日本仏教青年会・第19代理事長（2013-14）。
理事長の時、終戦70年に合わせ、沖縄で全国大会を開催。
日蓮宗で長年続ける慰霊行脚を超宗派で実施。350名の大行脚となる。
この流れは終戦80年の現在も継続される。

65年くらい前から日蓮宗ではこの沖縄の地で遺骨収集と慰霊行脚を続けていて、それに父も携わっていました。私もその影響を受け38年継続しています。我々は僧侶ですので、遺骨を収集をした後、ご遺骨やその場に対して読経をもって供養いたします。平和行進では「歩いて感じて祈る」ことが大前提だとは思いますが、私たちの慰霊行脚では、それに「苦しみを取り除く」ことが加わります。戦争を経験していない人にとって、当時の状況は想像を絶します。しかし、その中でもどれだけイメージを湧かせられるか。その時の人の心理状態を想像してみることはとても大事だと思います。

私は16歳で沖縄に来て、数年間、法華経寺で修行してから仏道に入りました。来たばかりの時、6月23日に行脚すると言われても、その時は法華経寺のある安里から平和祈念公園まで、おそらく30キロ以上だったと思いますが、距離感が分かりませんでした。途中のひめゆりの塔で、女子学生たちはこのように亡くなったと言われても、16歳の私には、言っている意味はわかる。その状況もわかる。でもイメージは湧きませんでした。今の若い子たちもそうなのではないかと思います。今日も修学旅行生を空港でたくさん見ましたが、平

琉球山 法華経寺（沖縄県那覇市安里）

和祈念公園やひめゆりの塔に行っても、友人関係が気になったり、修学旅行は楽しい思い出のような感じで、戦争のイメージが湧くものではないでしょう。ただ、そこに行ったと行かない、話を聞いたと聞かないでは、後々変わってくると感じています。私自身がそうだったからです。

今のこの日本の教育は、戦争のイメージが湧かないようになされているような気がしてなりません。歴史の教科書では、現代のページ数は少なく、事実が淡々と書かれているだけですから。

また、戦争の話を高齢者の方から聞いた時に、なるほどと聞いたふりをしているようなところが、戦争を体験していない昭和40年生まれのくらいの人たちからあるような気もします。うなずきはするけれど、なかなか入ってこない思考回路になっている感じがします。日本の教育にそういう所があると申しましたが、例えばドイツではユダヤ人の大虐殺を子どものうちから教えています。町のいたるところで、何月何日にここでユダヤ人が何人並ばされて後ろから銃弾で撃たれ、何人死んだと書いてある。常に感じられる状態にあって、小学生の低学年の子たちがこんな悲しいことは絶対にあってはいけない。そのために大人になってから平和な社会を築けるようにしたいという意見を持っています。今の日本でそのように言える子どもたちはどれほどいるでしょうか。幸い、ネット社会になって情報が入りやすくなりました。インターネットが当たり前の世代の子たちは、自分で情報を調べることができます。これは大きな変化だと思います。

先ほど述べたような国レベルでの教育による情報操作を乗り越えるにあたって、私たち僧侶も大きな役割を担っていると感じています。そのことを先師たちが凝縮された一言で残されています。「慰霊なくして平和なし」です。まず慰霊をするにはどういうことがあったのか、その時の人の心理、状態、苦しみを知る努力をしなければいけません。ただの事実だけではなく、命を取られる極限の状態とは何だということを知ろうとする努力が必要なのだと思います。

2025年6月23日に行われた慰霊行脚

そして次は行動に移ります。私たちが長年行っている慰霊には一般の方も参加してくれます。本年の6月23日には、終戦80年に合わせて、沖縄に180名ほどの僧侶が集結し、総勢230名の大行脚となります。日蓮宗と全国日蓮宗青年会、法華経寺が共催となり全日本仏教青年会の協力を得て、理事長はじめ各宗派の僧侶も参加します。世界仏教徒青年連盟(WFBY)の正式協力行事と認定され、会長にもお越しいただきます。沖縄を絶対に忘れてはいけないという思いが集まってくるということです。

思いを集めて行動に移したら次は伝えていかなければいけません。法華経寺では毎月行脚する際に、いろいろな場所を常に調べています。今、シュガーローフという激戦の跡地にご縁をいただき、お寺ができた経緯もあるため、周辺を重点的に行脚することが多いです。その時に、お題目の書いてある旗と、何をしているのか知ってもらうために、シュガーローフの慰霊と書いた旗を掲げています。するとみなさん、シュガーローフって何?となります。携帯で簡単に調べられますから、ここはそういう場所だったのかと繋がっていくことがあります。また中には、一緒に歩かせてもらっていいですかと入ってこられる方もいます。そのように活動から運動へ。運動は人の心を動かして、賛同してくれることへと繋がります。

シュガーローフをのぞむ、手前は日本軍の 47 ミリ砲

この戦いでは米軍もすごく多く亡くなっています。シュガーローフはアメリカ側からの呼び方で、元々は慶良間(けらま)チージ、慶良間諸島がよく見える丘という意味ですが、私たちの立場からすると、この戦いにおける敵味方一切の諸霊位と考えています。なんで米軍まで一緒に供養するんだと思う方もいるかもしれません。しかし、人というよりも、戦争自体が大罪であると捉えています。その大罪の中に人間が巻き込まれていくということです。戦争というボタンを押してしまったがために、人を殺さなければならない状況に追い込まれてしまうのは、アメリカの兵隊たちもそうです。そのモードになると人の心が狂ってしまう。国から言われたからと言って、平気で人を殺してしまう狂気。その状況に追い込まれたのは戦争になったからである。この戦争という人類の大罪を、今生きている人たちの代で、何とか起こさないようにしようという精神性を正しい思想のもとに伝えていくことが大切で、私たちはそれを「立正安国運動」と言っています。

世界平和を僧侶の視点から見ると、戦争の発端として人の心に行き当たります。どうしたら自分たちに都合がいいかということで戦争は始まります。人の心が乱れるとコミュニティが乱れます。最小のコミュニティは家族。そこから地域や社会が乱れ、国土が乱れ、そして世界が乱れていくと日蓮聖人の『立正安国論』では教えられています。我々はそういったことを提唱していく立場ですから、今回のこのような企画もやはり発信に繋げていく必要があるでしょう。全国には7万5千の寺院があり、日蓮宗だけでも5300カ寺あります。各お寺で戦争のことを伝えていく若い人たちを巻き込んでいくことが大事なのではないかと思います。

ただ伝えるだけではなく、一緒にお祈りをする。戦争で亡くなった方々の霊は非常に苦しまれているということを忘れてはいけません。私たちは「横死」という言葉を使います。そしてその上に「殉難」を付けて、「殉難横死之霊」という形で明確に供養いたします。「殉難」とは、国家や政府、世界の事情に巻き込まれて亡くなること。「横死」は自分では望んでいない、こんな死に方するのは納得ができないという死です。私たちは殉難横死之諸霊の魂の救済のためというのが大前提になります。

今、20代の僧侶も参加してくれています。全国の各寺院に持ち帰って発信するでしょう。それは次の世代にも繋いでいく意識であり、終戦90年、100年と、どこまでいっても終わりはないと思います。未来永劫に仏教がある限り、立正平和運動を続けてゆくということをもって、私からのお話とさせていただきます。

和田学英

伊東住職からは、今の若い僧侶が戦争にどう向き合っているか、どう向かい合うべきなのかをお話しいただきました。そうした思いは私たち全日本仏教会も同じであり、終わることなく伝えていかなければならないと考えています。そして岡田住職がおっしゃるように、私たち僧侶一人ひとりがどうしたら戦争にならないか考えていかなければならないと思います。今日、皆さまから伺った沖縄戦の話を受け継ぎそして僧侶として祈りを若い世代に受け継いでまいります。

皆さん、本日は長時間にわたりどうもありがとうございました。

加盟団体からのお知らせ

【浄土宗】増上寺所蔵の三大蔵、ユネスコ「世界の記憶」国際登録決定

2025（令和7）年4月17日、浄土宗の大本山、増上寺（東京都港区）が所蔵する「三大蔵」が、ユネスコの「世界の記憶」に登録されました。

三大蔵とは、17世紀初頭に徳川家康が日本全国から収集し、徳川家の菩提寺として定めた増上寺に寄進した、以下の3部の木版の大蔵経の総称です。

①宋版大蔵経：中国の南宋時代（12世紀）開版、通称、思渓版大蔵経

②元版大蔵経：中国の元時代（13世紀）開版、通称、普寧寺版大蔵経

③高麗版大蔵経：朝鮮の高麗時代（13世紀）開版

これら3つの大蔵経は、江戸時代の数多くの大火、幕末の動乱、関東大震災、東京大空襲などによる被災を免れ、一つも欠けることなく増上寺によって護持されてきました。

そして、これらの大蔵経は、明治時代に廃仏毀釈で荒廃した仏教の復興を願って、人々が容易にアクセスできるように近代的な活字印刷によって開版された『大日本校訂大蔵経』と、それに続いて大正時代に、それまでの仏教研究を踏まえて、より研究向けに開版された『大正新脩大蔵経』、それらの底本・校訂のために大いに活用されました。特に『大正新脩大蔵経』は海外にも流布され、現在もなお世界の仏教研究における漢訳仏典の基盤となっていることから考えると、増上寺が所蔵している三大蔵の価値は、私たち仏教徒にとって極めて大きいと言えるでしょう。

宋版 大方廣佛華厳経

元版 大方廣佛華厳経

高麗版 大方廣佛華厳経

他に「東寺百合文書」「智証大師円珍関係文書典籍」が登録されています。この度、三大蔵がそれに加わったことは、中国や朝鮮半島で編まれた大蔵経が日本に渡り、一つのみならず三つとも保存され、近代においてはそれらを元に新たな大蔵経が編纂され、そして現代ではデジタル化され、世界の誰もが瞬時にアクセス可能にするという永永とした知の営みが、仏教徒にとってのみならず、人類にとっても重要であるとみなされたことを意味します。

「世界の記憶」への登録が決定した翌日の2025（令和7）年4月18日、増上寺の光摂殿にて記者会見が行われました。

会見の冒頭、川中光教浄土宗宗務総長は、昨年の法然上人による浄土宗開宗850年に向けて、三大蔵を電子化しウェブに公開してきたことが、今回の登録の後押しになったのではないかと推測。

続いて、小林正道増上寺執事長は、徳川家康の命日の4月17日に決定したご縁を感慨深く語りました。

申請推薦者の下田正弘東京大学名誉教授は、インドに始まり中国や朝鮮を経て仏教の知的遺産が国や歴史を超えて日本において保存されてきたことが、今回ユネスコによって再発見されたこと。ここに記録された事実が新たに参照可能な歴史の基点になること。そして仏教の伝承は口伝に始まり、書写、木版印刷、活版印刷を経て電子化されたこと。この3点がユネスコが目指していることに合致していると、その意義を説明しました。

申請書の執筆担当者、柴田泰山浄土宗総合研究所研究員は、経典の一文字一文字が仏教を伝えよう護ろうとした人々の思いの結晶であることを強調しながら、デジタルの世界で仏教の文化や思想を語り合う土台ができたことへの御礼が述べられました。

最後に袖山榮輝増上寺教務部長は、今後も伝統を受け継ぎながら、仏教が世界に広がるように努力する旨が述べられました。

会見後、増上寺の宝物展示室で開催の企画展『徳川家康と増上寺三大蔵』を拝観しました。家康公の掛け軸や、実際の三大蔵など数多くの寺宝が展示され、会見に登壇された先生方の解説と記者たちの質問が飛び交いました。

2024年から34年の10年間は『大正新脩大蔵経』が編纂されてから100年の記念すべき年となります。全日本仏教会としても、仏教の叡智の集成である大蔵経を、人々に広く知ってもらうべく、今後、さまざまな企画をしてまいります。

残暑お見舞い申しあげます

曹洞宗宗務庁

管長 南澤道人
宗務総長 服部秀世
参議 熊谷紘全
参議 渡邊義弘
教学部長 深川典雄
人事部長 喜美候部謙史
教化部長 藏山大顕
伝道部長 髙橋英寛
総務部長 圓通良樹
出版部長 伊藤弘隆
財政部長 服部直哉

東京都港区芝二ー五ー二
〒105-8544 〇三(三四五四)五四一一
▼曹洞宗公式サイト「曹洞禅ネット」
https://www.sotozen-net.or.jp/

浄土真宗本願寺派

結ぶ絆から、広がるご縁へ

総長 園城義孝
総務 桑羽隆慈
総務 竹田空尊
総務 松原功人
副総務 清岡大地
副総務 森眞仁

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下る
浄土真宗本願寺派 宗務所
TEL 〇七五(三七一)五一八一
FAX 〇七五(三五一)一三七二
https://www.hongwanji.or.jp/

真宗大谷派

真宗大谷派 東本願寺 shinshu Otani-ha Higashihonganji

宗務総長 木越渉
参務 古賀堅志
参務 財務長 長峯顕教
参務 行財政改革 佐々木高
参務 儀式指導研究所長 首都圏教化推進本部長 轡田普善
参務 解放運動推進本部長 青少幼年センター長 山田孝彦

〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る
常葉町七五四
TEL 〇七五(三七一)九一八一
https://www.higashihonganji.or.jp/

浄土宗

「浄土宗二十一世紀劈頭宣言」
愚者(ぐしゃ)の自覚(じかく)を
家庭にみ仏の光を
社会に慈(いつく)しみを
世界に共生(ともいき)を

浄土門主 伊藤唯眞
宗務総長 川中光教
宗務役員 吉水仙昭
宗務役員 中嶌正史
宗務役員 茂木恵順
企画調整室長 名越邦博
職員 一同

浄土宗宗務庁
〒605-0062 京都市東山区林下町四〇〇-八
TEL 〇七五(五二五)二二〇〇
FAX 〇七五(五三一)五一〇五
〒105-0011 東京都港区芝公園四-七-四
TEL 〇三(三四三六)三三五一
FAX 〇三(三四三四)〇七四四
https://jodo.or.jp

日蓮宗

いのちに合掌

管長 菅野日彰
宗務総長 田中恵紳
伝道局長 柳下俊明
総務局長 光岡潮慶
伝道部長 長谷川雄一
教務部長 川久保光隆
総務部長 畑栄明
財務部長 笠井照永
宗務総長室長 秋山文裕
現代宗教研究所長 赤堀正明
参与 渡邊義生
参与 田中智海
日蓮宗新聞社社長 田邊木蓮

日蓮宗宗務院
〒146-8544 東京都大田区池上一-三二-一五
TEL 〇三(三七五一)七一八一
FAX 〇三(三七五一)七一八六
https://www.nichiren.or.jp

残暑お見舞い申しあげます

高野山真言宗 総本山金剛峯寺

座主 管長 長谷部真道
執行長 宗務総長 今川泰伸

生かせ いのち

令和16年（2034年）宗祖弘法大師御入定1200年御遠忌大法会

〒648-0294 和歌山県伊都郡高野町高野山一三二
TEL 〇七三六(五六)二〇一一
FAX 〇七三六(五六)四六四〇

臨済宗妙心寺派宗務本所

管長 山川宗玄
宗務総長 野口善敬
総務部長 花園会館部長(兼) 真常紹天
教学部長 岩浅慎龍
財務部長 羽賀浩規
花園会本部長 小川太喜
法務部長 柴山昌実

興祖微妙大師 650年 遠諱大法会

〒616-8034 京都市右京区花園木辻北町一
TEL 〇七五(四六三)三一二一
https://www.myoshinji.or.jp/

天台宗

天台座主 藤光賢
宗務総長 細野舜海
参務 総務部長 坂本圭司
参務 法人部長 四竈亮真
参務 財務部長 大角実豊
参務 教学部長 村田庸田
参務 社会部長 原徳明
参務 一隅を照らす運動総本部長 荒樋勝善

〒520-0113 大津市坂本四丁目六番二号
TEL 〇七七(五七九)〇〇二二
FAX 〇七七(五七九)二五一六
https://www.tendai.or.jp/

真言宗智山派宗務庁 総本山智積院

管長 化主 吉田宏哲
宗務総長 寺務長 三神栄法
総務部長 執事 久保田剛士
教学部長 執事 金子隆昭
教化部長 執事 荒井真道
法務部長 執事 疋田精栄
財務部長 執事 杉本栄次
宗務出張所長 別院執事 宮田隆伸

〒605-0951 京都市東山区東大路七条下ル
東瓦町九六四
TEL 〇七五(五四一)五三六一
https://chisan.or.jp/

天台真盛宗 総本山西教寺

管長 貫首 武田圓寵
宗務総長 執事長 市川隆成
教学部長 兼子鐵秀
社会部長 西澤義宏
財務部長 橋爪眞全
庶務部長 鈴木康之

〒520-0113 滋賀県大津市坂本五-一三-一
TEL 〇七七(五七八)〇〇一三
FAX 〇七七(五七八)三四一八

残暑お見舞い申しあげます

天台寺門宗

管長　村上　法照
宗務総長　明石　清澄
教学部長　小林　慶明
財務部長　川合　弘曜
修験道部長　秋田　幸輝
庶務部長　加藤　明信
録事　三島　宗覚

〒520-0036
滋賀県大津市園城寺町二四六
TEL〇七七（五二二）五一一〇
FAX〇七七（五二二）五一二八

総本山仁和寺 真言宗御室派

門跡 管長　瀬川　大秀
執行長 宗務総長　大林　實温
執行 総務部長　牟田　清樹
執行 教学部長　橋本　高諄
執行 財務部長　松永　眞和

〒616-8092
京都市右京区御室大内三三
TEL〇七五（四六一）一一五五
FAX〇七五（四六四）四〇七〇
https://ninnaji.jp

真言宗醍醐派宗務本庁 総本山醍醐寺寺務所

管長 座主　壁瀬　宥雅
宗務総長 執行長　大原　弘敬
総務部長 執行　田中　祐考
教学部長 執行　浦郷　宜右
財務部長 執行　宮野　隆聖

〒610-1325
京都市伏見区醍醐東大路町二二
TEL〇七五（五七一）〇〇〇二
FAX〇七五（五七一）〇一〇一
https://www.daigoji.or.jp

融通念佛宗 総本山大念佛寺

管長　吉村　暲英
宗務総長 寺務総長　田中　瑞修
教学部長 法務部長　沢田　善秀
庶務部長　好野　良博
財務部長 会計部長　佐々木智祥

〒547-0045
大阪市平野区平野上町一-七-二六
TEL〇六（六七九一）〇〇二六
FAX〇六（六七九三）三〇五〇
https://www.dainenbutsuji.com

法華宗（本門流）

管長　久保木日將
宗務総長　金井　孝顕
教学部長　松井　正孝
布教部長　三吉　廣明
総務部長　平田　義生
財務部長　久野　晃秀
企画部長　吉﨑　長生

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町二-一九-一
TEL〇三（五六一四）三〇五五
FAX〇三（五六一四）三〇五六
http://www.hokkeshu.or.jp

残暑お見舞い申しあげます

法華宗（陣門流）

管長　鈴木　日慧
宗務総長　西山　英仁
総務部長　牧野　秀成
企画部長　金原　孝宜
財務部長　西山　聡達
教学部長　布施　義高
教化部長　松吉　慶憲
宗務参事　田中　隆寛
宗務参事　田内　孝照
宗務参事　竹内　敬雅

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨五-三五-六
TEL〇三（三九一八）七二九〇
FAX〇三（三五七六）〇一二一

顕本法華宗

管長　奥村　日拝
宗務総長　秋葉　敬真
宗務次長　津村　乗信
庶務部長　秋山　事遷
布教部長　川崎　英真
社会部長　中村　文治
財務部長　島田　誠岳
教務部長　藤﨑　裕学

顕本法華宗宗務院
〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町九十一
総本山妙満寺内
TEL〇七五（七九一）七一七一
FAX〇七五（七九一）七二六七

愛知県仏教会

会長　軽部　浩史（曹洞宗）
副会長　山田　泰信（曹洞宗）
副会長　酒井　泰俊（曹洞宗）
副会長　林　大晃（西山浄土宗）
理事長　後藤　順生（真宗大谷派）
顧問　伊藤　正導（真宗大谷派）
顧問　岩木　涼山（浄土宗）

事務局
〒497-0036
愛知県海部郡蟹江町須成西七丁目六六―一
TEL〇五六七（九五）三〇一〇

京都府仏教連合会

理事長　貴田　善澄
理事　藤實　無極
理事　木越　渉
理事　野口　善敬
理事　三神　栄法
理事　大原　弘敬
理事　小田　和幸
理事　萩野　昌彦
理事　奥垣内　圭哲
理事　佐藤　泰慎
理事　三縁　勝弘
理事　久下　浩文
理事　石津　幸次
理事　柴田　康仁
評議員　加藤　良邦
評議員　八木　浄顯
評議員　赤塚　日辰
評議員　末本　樹哉
評議員　橋本　周現
評議員　山本　正廣
評議員　稲岡　正純
評議員　西山　恵龍
評議員　柏田　良辯
評議員　安田　真源
評議員　明山　年洋
監事　秦　直樹
事務総長　井上　正顕
事務総長　新谷　仁海

〒605-8686
京都市東山区林下町四〇〇
総本山知恩院内
TEL〇七五（五三一）二一一一
FAX〇七五（五三一）〇〇九九

大阪府佛教会

大阪府佛教会創立六十周年記念事業

第47回 全日本仏教徒会議 大阪大会

日時：二〇二五年九月五日～六日
会場：ホテル日航大阪

大会テーマ
無量の「いのち」
～すべてのいのちを慈しむ～
皆様のご参加お待ち申し上げております

大会長　村山　廣甫（曹洞宗 東光院）
実行委員長　清澤　悟（真宗大谷派 願得寺）
事務局長　二上　寛弘（高野山真言宗 釈迦院）

事務局
〒552-0021
大阪市港区築港一-十三-三釋迦院内
TEL〇六（六五七一）五七一〇

残暑お見舞い申しあげます

公益社団法人 日本仏教保育協会

〒105-0011
東京都港区芝公園四-七-四
明照会館二階
TEL ○三（三四三一）七四七五
FAX ○三（三四三一）一五一九

伝えよう
生命の尊さ
ほとけの心

日仏保

名誉会長 小澤 憲珠
理事長 髙山 久照
副理事長 髙輪 真澄
副理事長 長谷川 弘顕
副理事長 日野 昭文
副理事長 橋本 幸雄

真言宗豊山派宗務所

〒112-0012
東京都文京区大塚五-四〇-八
TEL ○三（三九四五）〇六三九
http://www.buzan.or.jp/

管長化主 川俣 海淳
宗務総長 川田 興聖
総務部長 吉田 真澄
教化部長 小林 政彦
教務部長 川城 孝道
財務部長 藤原 静海
教化センター長 島本 誠永
真言宗豊山派総合研究院院長 中川 祐聖

金峯山修験本宗 総本山金峯山寺

〒639-3115
奈良県吉野郡吉野町
吉野山二四九八
TEL ○七四六（三二）八三七一
FAX ○七四六（三二）四五六三
https://www.kinpusen.or.jp

管領長 五條 良知
宗務総長 五條 永教
執行長

聖観音宗 浅草寺

〒111-0032
東京都台東区浅草二-三-一
TEL ○三（三八四二）〇一八一
FAX ○三（三八四五）六九三三

貫首 田中 昭德
執事長 守山 雄順

孝道教団

〒221-0064
横浜市神奈川区鳥越三八
TEL ○四五（四三二）一二〇一
FAX ○四五（四三四）一一八八

統理 岡野 正純

念法眞教

〒538-0054
大阪市鶴見区緑三-四-二二
TEL ○六（六九一一）二一〇一
https://www.nenpoushinkyou.jp

総本山小倉山金剛寺
燈主 桶屋 良祐

真言宗大覚寺派 大本山大覚寺

大覚寺 寺号勅許（開創）
一一五〇年記念法会 今和八年厳修

管門跡長 山川 龍舟
宗務総長
執行長 堤 大恵

〒616-8411
京都市右京区嵯峨大沢町四
TEL ○七五（八七一）〇〇七一
FAX ○七五（八七一）〇〇五五
https://www.daikakuji.or.jp

真言宗須磨寺派 大本山須磨寺

〒654-0071
神戸市須磨区須磨寺町四-六-八
TEL ○七八（七三一）〇四一六

貫主 小池 弘三

真言宗中山寺派 大本山中山寺

〒665-8588
宝塚市中山寺二丁目十一-一
TEL ○七九七（八七）〇〇二四
FAX ○七九七（八七）九八七七
https://www.nakayamadera.or.jp

長老 今井 淨圓

残暑お見舞い申しあげます

真言三宝宗 大本山清澄寺

管長法主 坂本 光謙
宗務長 國定 道晃
執行長 森藤 晃正
鉄斎美術館長 森藤 光宣

〒665-0837
宝塚市米谷字清シ一番地
TEL ○七九七（八六）六六四一
FAX ○七九七（八六）六六六〇
http://www.kiyoshikojin.or.jp

東寺真言宗

〒601-8473
京都市南区九条町一
東寺真言宗宗務庁
TEL ○七五（六七二）三七一七
FAX ○七五（六六一）六八五六

宗務総長 吉村 増亮

西山浄土宗 総本山光明寺

管長法主 沢田 教英
宗務総長
執事長 柴田 康仁

〒617-0811
京都府長岡京市粟生西条の内二六番地の一
TEL ○七五（九五五）〇〇〇二
FAX ○七五（九五三）二二六四

東京別院
〒194-0215
東京都町田市小山ヶ丘一-二-一
TEL ○四二（七九四）八五八五
https://www.komyo-ji.or.jp/

横浜分院
〒223-0053
神奈川県横浜市港北区綱島西二-三二-四
TEL ○四五（五四四）四八九四

時宗

〒251-0001
神奈川県藤沢市西富一-八-一
TEL ○四六六（一三）七二七六

法主 東山 心徹

臨済宗南禅寺派 大本山 南禅寺

〒606-8435
京都市左京区南禅寺福地町八六
TEL ○七五（七七一）〇三六五
FAX ○七五（七七一）六九八九

臨済宗円覚寺派 大本山円覚寺

〒247-0062
鎌倉市山ノ内四〇九
TEL ○四六七（二二）〇四七八
FAX ○四六七（二三）三〇二七
http://www.engakuji.or.jp

管長 横田 南嶺
宗務総長 永田 正和

臨済宗相国寺派 大本山相国寺

管長 有馬 頼底
宗務総長 佐分 宗順

〒602-0898
京都市上京区今出川通烏丸東入
相国寺門前町七〇一番地
TEL ○七五（二三一）〇三〇一
FAX ○七五（二一一）三五九一
https://www.shokoku-ji.jp

法華宗（真門流）

〒602-8447
京都市上京区智恵光院通五辻上る
紋屋町三三〇
TEL ○七五（四四一）五七六二
FAX ○七五（四四一）五六六六
http://www.hokkeshu.jp/

管長 上田 日献
宗務総長 堀内 浩善
総務部長 坂本 法保
教学部長 峰尾 泉栄
教化部長 舟積 法宏
社会部長 水野 智悠
財務部長 掘 雅博

本門佛立宗 本山宥清寺

講有 木村 日覚
宗務総長 亀井 日魁

本山宥清寺
〒602-8336
京都市上京区一条通七本松西入る
滝ヶ鼻町一〇〇五番地一
TEL ○七五（四六三）四六二〇(代)
FAX ○七五（四六三）四六五一

本門佛立宗 宗務本庁
〒602-8377
京都市上京区御前通一条上る
東竪町一一〇番地
TEL ○七五（四六一）一一六六(代)
FAX ○七五（四六四）五五九九

京都佛立ミュージアム
TEL ○七五（二八八）三三四四
URL https://www.hbsmuseum.jp

福島県仏教会

〒963-0201
福島県郡山市大槻町字上町七
長泉寺内
TEL ○二四（九五一）一六二八

会長 秋山 孝雄
専務理事 三瓶 信晃
事務局長 熊田 秀海
広報 佐藤 教順
会計 高桒 清二
庶務 大竹 信仁

残暑お見舞い申しあげます

一般財団法人 埼玉県佛教会

会長　加藤　玄静
専務理事　深谷　雅良
副会長　山口　正純
副会長　河野　亮玄

〒330-0063
さいたま市浦和区高砂四-十三-十八
TEL　〇四八（八六一）二一三八
FAX　〇四八（八六四）六六四九

東京都仏教連合会

会長　小澤　憲珠
理事長　三吉　廣明

〒111-0036
東京都台東区松が谷二-十九-七
涼源寺内
TEL　〇三（三八四四）九五九七
FAX　〇三（三八四四）三一七七

愛媛県仏教会

愛媛県仏教会

公益財団法人 全日本仏教婦人連盟

会長　東伏見具子
副会長　加用　稔子
同　吉田　真理
理事長　本多　端子

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷
四-五-十-二〇五
TEL　〇三（五七七二）〇六七七
FAX　〇三（六四三四）〇一八四
https://jbwf.jp
E-mail:info@jbwf.jp

公益財団法人 仏教伝道協会

会長　木村　清孝
理事長　沼田　恵明
常務理事　松丸　壽雄

〒108-0014
東京都港区芝四丁目三-一四
TEL　〇三（三四五五）五八五一
FAX　〇三（三七九八）二七五八
https://www.bdk.or.jp

一般社団法人 日本仏教鑽仰会

代表理事　中山　斉栄

〒174-0041
東京都板橋区舟渡四-十五-一
TEL　〇三（三九六七）三二八八
https://bukkyo-seminar.jp
info@bukkyo-seminar.jp

神奈川県仏教会

総裁　石附　周行
常任顧問　本間　孝康
同　都築　哲信
同　木内　雍明
同　和田　大雅
会長　佐藤　功岳
副会長　菅原　節生
同　山本　昭弘
同　阿川　文叡
同　鈴木　嘉昭
事務局長　横溝　常之

〒231-0859
横浜市中区大平町九六　西有寺内
TEL　〇四五（六六一）〇一六六

山梨県仏教会

会長　武田　智宏
副会長　清雲　俊雄
〃　河口　智範
顧問　千野　宗雄

〒409-3612
山梨県西八代郡市川三郷町
上野四三〇八　光勝寺内
TEL　〇五五（二七二）〇八七七
FAX　〇五五（二七二）〇八七七

印度山日本寺

日本寺竺一主　北河原　公敬
理事長　中村　康雅

〒153-0061
東京都目黒区中目黒五-二四-五三
TEL　〇三（三七一一）七六〇八

公益財団法人
国際仏教興隆協会

日韓仏教交流協議会

会長　藤田　隆乗
副会長　柴田　哲彦
理事長　戸松　義晴
事務総長　佐藤　隆一

〒210-8521
神奈川県川崎市川崎区
大師町四-四八
川崎大師平間寺教化部内
TEL　〇四四（二六六）三四二〇
FAX　〇四四（二七七）八一六三

残暑お見舞い申しあげます

和宗
妙見宗
新義真言宗
真言宗善通寺派
真言宗山階派
真言宗泉涌寺派
真言宗国分寺派
信貴山真言宗
真言宗犬鳴派
浄土宗西山禅林寺派
浄土宗西山深草派
真宗高田派
真宗佛光寺派
真宗興正派
真宗木辺派
臨済宗建長寺派
臨済宗天竜寺派
臨済宗東福寺派
黄檗宗
本門法華宗
法相宗
聖徳宗
華厳宗
真言律宗
律宗
北海道仏教会連盟
青森県仏教会
岩手県仏教会
茨城県仏教会
栃木県仏教会
群馬県仏教連合会
千葉県仏教会
新潟県仏教会
石川県仏教会
福井県仏教会
長野県仏教会
岐阜県仏教会
静岡県仏教会
滋賀県仏教会
京都仏教会
兵庫県仏教会
和歌山県仏教会
鳥取県仏教連合会
島根県仏教会
岡山県仏教会
徳島県仏教会
香川県仏教会
高知県仏教会
福岡県仏教連合会
長崎県仏教連合会
熊本県仏教会
宮崎県仏教連合会
沖縄県仏教会
東京ブディストクラブ
全日本仏教青年会
（一社）仏教情報センター

賛助会員

【特別会員】
大本山東福寺　原田　融道
蓮華院誕生寺　川原　英照
尾道仏教会　小林　暢善
實相山中央寺　熊谷　忠興
信州善光寺　若麻績　享則
一般社団法人仙台仏教会　伊達　廣三
壷阪山南法華寺　常盤　勝範
築地本願寺　千田　雅寛
気仙沼仏教会

【団体会員】
京セラ株式会社（電子機器製造）
株式会社カナメ（建築）
大建工業株式会社 国内製造企画部（建築）
松井建設株式会社（建設）
住友林業株式会社（住宅・建築事業）
損害保険ジャパン株式会社（保険）
第一生命保険株式会社（保険）
株式会社ルンビニ（保険代理店）
大和証券株式会社 法人コンサルティング部（ビジネスサポート）
野村證券株式会社 金融公共公益法人部（金融）
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 本店金融公共法人第一部（金融）
株式会社ストライク（M&A仲介）
株式会社大陸旅遊（旅行）
近畿日本ツーリスト株式会社（旅行）
東武トップツアーズ株式会社（旅行）
株式会社JTBツーリズム事業本部（旅行）
株式会社金剛組（寺院建築）
日本テンプルヴァン株式会社（寺院経営コンサルタント）
株式会社TERASU（寺院サポートコンサルティング）
株式会社アンカレッジ（寺院運営サポート・企画）
有限会社新宿アカウンティングオフィス（経営コンサルティング）
株式会社縁（社寺仏閣総合リスクコンサルタント）
8infinity株式会社（神社仏閣の総合経営支援）
株式会社AVENIL（お寺の窓口運営・WEB制作）
株式会社TERATech Inc.（お寺のDX支援）
株式会社シェアウィング（お寺ステイの提案）
株式会社セキュリティハウス（防犯）
グレートインフォメーション株式会社（システム開発運営・WEB制作）
株式会社東海大阪レンタル（イベント・レンタル）

残暑お見舞い申しあげます

株式会社エコ・マイニング（環境・エネルギー）
株式会社オメガ・コミュニケーションズ（翻訳・出版物企画・制作）
株式会社ディー・エイ・ティ・コーポレーション（出版物企画・制作）
ディーエムソリューションズ株式会社（物流・デザイン）
新日本法規出版株式会社（法規図書出版）
株式会社広済堂ネクスト（印刷・IT・WEB・求人広告・人材サービス）
キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ株式会社（印刷・機器販売）
三協美術印刷株式会社（写植・製版）
株式会社漫画家学会（漫画・紙芝居）
株式会社サウンドファン（音のバリアフリー開発・製造・販売）
株式会社大塚商会（システム機器、ソフトウェアの販売）
株式会社京念珠刑部（念珠製造・販売）
株式会社京扇堂（扇子製造・販売）
株式会社小堀（仏壇仏具製造・販売）
株式会社若林工芸舎（文化財保存修理）
株式会社公益社（葬祭）
株式会社ダイセイ（総合商社）
三信電気株式会社（IT総合）
株式会社アドレスジムキ（オフィス機器販売）
株式会社いせや（石材）
株式会社おぎそ（高強度磁器食器の製造、販売）
TERAEnergy株式会社（小売電力）
株式会社鎌倉新書（終活支援）
株式会社オフィスワイズ（プロモーション企画）
イワトー株式会社 みのはん（寺院向け業務用品通信販売）
株式会社エータイ（永代供養・樹木葬）
株式会社セルフネン（建築材料）
株式会社ドリーム（音響機器の製造・販売）
日本ライフライン株式会社（医療機器）
日本仏教看護・ビハーラ学会

淑徳大学アジア国際社会福祉研究所
一般財団法人ライフプランニングセンター
一般財団法人100万人のクラシックライブ
一般社団法人LOS相談センター
一般社団法人PRAYfor（ONE）
一般社団法人良いお寺研究会
特定非営利活動法人ジャパンハート
全日本宗教用具協同組合
全日本葬祭業協同組合連合会
岩手県葬祭業協同組合
埼玉県葬祭業協同組合
東京都葬祭業協同組合
神奈川県葬祭業協同組合
岐阜県葬祭業協同組合
名古屋葬祭業協同組合
愛知県葬祭業協同組合
京都中央葬祭業協同組合
大阪葬祭事業協同組合
福岡県葬祭業協同組合
長崎県葬祭業協同組合
一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会
一般社団法人日本石材産業協会
准秩父観音霊場三十四札所

残暑お見舞い申しあげます

【個人会員】
社本　公一（公認会計士）
龍泉寺　佐々木　誠宗（秋田県）
護勢寺　菅原　公宇（宮城県）
福聚院　伊達　廣三（宮城県）
慈願寺　池田　行信（栃木県）
東榮寺　大森　篤史（埼玉県）
法瑠寺　矢島　浄純（埼玉県）
建福寺　安野　正樹（埼玉県）
光明寺　石上　智康（千葉県）
報土寺　朝倉　俊隆（東京都）
妙定院　小林　正道（東京都）
浄心寺　佐藤　雅彦（東京都）
真照寺　堀井　隆川（東京都）
長専院　正本　光生（東京都）
廣徳寺　板坂　光明（神奈川県）
清水寺　久喜　和裕（神奈川県）
大藏寺　佐藤　直道（神奈川県）
金蔵院　眞田　有快（神奈川県）
龍泉寺　壽山　良光（神奈川県）
圓満寺　西郊　良光（神奈川県）
正泉寺　野澤　隆幸（神奈川県）
實相院　東田　樹治（神奈川県）
重蓮寺　関﨑　幸孝（新潟県）
法元寺　鈴木　義俊（山梨県）
玄向寺　荻須　眞教（長野県）
本光寺　木村　光正（静岡県）
観音寺　石原　峰志（愛知県）
寂光院　松平　實胤（愛知県）
太福寺　佐久間　大道（兵庫県）
善隆寺　杉浦　栄俊（兵庫県）
吉祥院　曽我　龍慶（兵庫県）
精明寺　疋田　哲壽（鳥取県）
洞光寺　池上　幸秀（島根県）
薬師院　小川　義眞（島根県）
永昌寺　門脇　直哉（島根県）
定林寺　田邊　学成（岡山県）
西光寺　髙橋　篤法（大分県）
其田　寿一（青森県）
渡邊　永（宮城県）
小田　卓也（千葉県）
鈴木　朝雄（千葉県）
小川　昌美（東京都）
北野　譲治（東京都）
小林　昇（東京都）
鈴木　謙太（東京都）
平　みきお（東京都）
鳥居　邦夫（東京都）
松村　一平（東京都）
村松　朱実（東京都）
天久保　貴（神奈川県）
大谷　喜代司（神奈川県）
君和田　茂男（神奈川県）
木村　匡成（神奈川県）
佐藤　泰之（神奈川県）
中村　美津江（神奈川県）
松田　健（神奈川県）
山﨑　忠征（和歌山県）
安田　容造（京都府）
邊見　由峰（香川県）
乗松　奈津子（愛媛県）
井上　美和子（佐賀県）
塩月　光夫（宮崎県）
山口　展弘（宮崎県）
逢沢　一郎（衆議院議員）
石田　真敏（衆議院議員）
岩屋　毅（衆議院議員）
枝野　幸男（衆議院議員）
大串　博志（衆議院議員）
逢坂　誠二（衆議院議員）
加藤　勝信（衆議院議員）
金子　恭之（衆議院議員）
上川　陽子（衆議院議員）
後藤　茂之（衆議院議員）
小山　展弘（衆議院議員）
櫻井　周（衆議院議員）
佐藤　公治（衆議院議員）
関　芳弘（衆議院議員）
高市　早苗（衆議院議員）
原口　一博（衆議院議員）
平沢　勝栄（衆議院議員）
堀内　詔子（衆議院議員）
前原　誠司（衆議院議員）
牧島　かれん（衆議院議員）
松木　謙公（衆議院議員）
松田　功（衆議院議員）
松本　剛明（衆議院議員）
森山　浩行（衆議院議員）
浅尾　慶一郎（参議院議員）
伊藤　孝恵（参議院議員）
片山　さつき（参議院議員）
片山　大介（参議院議員）
斎藤　嘉隆（参議院議員）
徳永　エリ（参議院議員）
福山　哲郎（参議院議員）
水岡　俊一（参議院議員）
大野　元裕（埼玉県知事）
早坂　義弘（東京都議会議員）
荒井　聰（元衆議院議員）
大塚　高司（元衆議院議員）
河村　建夫（元衆議院議員）
小島　敏文（元衆議院議員）
左藤　章（元衆議院議員）
佐藤　ゆかり（元衆議院議員）
野田　毅（元衆議院議員）
橋本　岳（元衆議院議員）
細田　健一（元衆議院議員）
三原　朝彦（元衆議院議員）
盛山　正仁（元衆議院議員）
湯原　俊二（元衆議院議員）
大塚　耕平（元参議院議員）
鈴木　寛（元参議院議員）
鈴木　政二（元参議院議員）
武見　敬三（元参議院議員）
二之湯　智（元参議院議員）
白　眞勲（元参議院議員）
藤谷　光信（元参議院議員）

（令和7年7月31日現在）

（敬称略・順不同）

第36期第3回国際交流審議会

日　時：令和7年3月10日13時半～
場　所：本会会議室（オンライン併用）
諮　問：①「国際交流の現状と今後の展望について」
②「SDGs（気候変動・難民問題・ジェンダー平等）について」
出席委員：11名（15名中）
藤澤理映（浄土真宗本願寺派）
大島啓慈（日蓮宗）
後藤友栄（高野山真言宗）
松山大耕（臨済宗妙心寺派）
荒樋勝善（天台宗）
鈴木晋怜（真言宗智山派）
久野晃秀（法華宗（本門流））
長松清潤（本門佛立宗）
日比野郁皓（学識経験者）
枝木美香（学識経験者）
西永亜紀子（学識経験者）

【概要】
3月10日、本会会議室とZOOMオンライン会議室にて第3回国際交流審議会を開催しました。
まず和田学英事務総長の発声で三帰依文を唱和し、引き続き開会挨拶が述べられ、長松清潤委員長の議事進行で諮問についての審議が行われました。

諮問①の「国際交流の現状と今後の展望について」は加盟団体の国内外の事例や方針を共有いただき、国際布教師育成、インバウンド対応などの施策を話し合い、答申に向けた総括をいたしました。
諮問②の「SDGs（気候変動・難民問題・ジェンダー平等）について」は、特に宗派内のジェンダーに関わる課題を共有し、国際感覚に長けた委員の皆様から様々な意見を頂戴しました。
最後に国連UNHCR協会の天沼耕平氏にご登壇いただき、「世界の難民情勢」「6月20日世界難民の日の取り組み」などについてご講義をいただきました。

第12回代議員会議

日　時：令和7年3月12日（水）14時～
会　場：本会会議室（オンライン併用）
出席代議員：
髙橋宏規（（公財）仏教伝道協会）
吉田明良（和宗）
吉﨑長生（法華宗（本門流））
逸見道郎（（公財）国際仏教興隆協会）
新井順證（全日本仏教青年会）
髙野清純（本門佛立宗）
高山久照（（公社）日本仏教保育協会）
軽部浩史（愛知県仏教会）
田中孝之（孝道教団）
奥村顕調（（一社）徳島県仏教会）
吉田泰樹（東京都仏教連合会）
柴田康仁（西山浄土宗）
加藤玄静（（一財）埼玉県佛教会）
丸山良徳（念法眞教）
大畠博道（岡山県仏教会）
二宮泰教（愛媛県仏教会）
弘中康之（宮崎県仏教会）
茶円宥勝（島根県仏教会）
菅原節生（神奈川県仏教会）
柴田康仁（西山浄土宗）

報告事項
①2025（令和7）年度事業計画案について
②2025（令和7）年度収支予算案について
③2025（令和7）年度資金調達及び設備投資の見込みについて
④各部報告

第36期第3回支援検討会議

日　時：令和7年3月13日13時30分～
会　場：本会会議室（オンライン併用）
出席委員：
吉田泰樹（東京都仏教連合会）
鬼頭広安（（一社）仏教情報センター）
長谷川正浩（全日仏顧問弁護士）
梨本三千代（（公社）全日本仏教婦人連盟）
稲場圭信（大阪大学）
新井順證（全日本仏教青年会）

協議事項：
①救援基金報告
②第29次災害救援助成金審査について（2024年10月1日～2025年1月31日）
③第31次災害救援助成金募集要項について

第36期第4回社会・人権審議会

日　時：令和7年3月25日14時～
会　場：本会会議室（オンライン併用）
出席委員：
我孫子高宏（曹洞宗）
岡田光恵（浄土真宗本願寺派）
徳永　誠（真宗大谷派）
長谷川岱潤（浄土宗）
赤堀正明（日蓮宗）
藤本善光（高野山真言宗）
谷　明生（臨済宗妙心寺派）
原　徳明（天台宗）
株橋隆真（法華宗（本門流））
小池達子（学識経験者）
出席理事：
長澤香静（（一財）京都仏教会）
花岡眞理子（（公社）全日本仏教婦人連盟）
オブザーバー：
長谷川正浩（本会顧問弁護士）
大島義則（本会顧問弁護士）

【概要】
三帰依文を唱和の後、谷明生委員長の進行により、「諮問③『過去帳』等の取り扱いについて」をテーマとした人権問題連絡協議会の内容確認、「諮問①首相及び閣僚の靖国神社公式参拝中止要請について」、「諮問②仏教者として死刑についてどう考えるか」、各文書の文言の検討、意見交換を行いました。

第4回法人創立70周年記念事業実行委員会

日　時：令和7年4月17日14時～
会　場：本会会議室（オンライン併用）
出席委員：
和田学英（事務総長）
伊藤道仁（曹洞宗）
渡邊弘文（浄土真宗本願寺派）
石井正道（真宗大谷派）
西　央成（浄土宗）
坂詰秀正（日蓮宗）
井上聖憲（高野山真言宗）
西村智秀（天台宗）
平野哲央（真言宗智山派）
吉田真澄（真言宗豊山派）
熊田秀海（福島県仏教会）
鈴木義俊（山梨県仏教会）
小川淳詩（（公財）仏教伝道協会）
掬池友絢（学識経験者）
加藤京子（学識経験者）
村瀬友洋（学識経験者）
金原円応（学識経験者）

【概要】
定刻になり開会。周年記念事業事務局員に日蓮宗渡部公仁師の就任報告。委員の交代があり高野山真言宗井上聖憲師に委嘱状交付。和田学英委員長の発声にて三帰依文を唱和、続き、挨拶。委員長が議長となり検討事項に入りました。事務総局より現況報告の後、検討課題について委員間にて意見を交換し、引き続き検討を重ねることとなりました。

フランシスコ教皇弔問記帳

ローマ教皇フランシスコ台下の崩御を受けて、令和7年4月25日に駐日ローマ法王庁大使館を弔問し、記帳し弔意を表しました。
以下、令和7年4月23日に発表した日谷照應理事長の談話です。

公益財団法人全日本仏教会（以下、本会）は、ローマ・カトリック教会のフランシスコ教皇崩御の報に接し、謹んでお悔やみを申しあげます。

本会はバチカン市国のローマ教皇庁と長年にわたり諸宗教対話などの交流を続けており、2019年にフランシスコ教皇が来日され、広島を訪問された時には本会第33期江川辰三会長と共に平和への祈りを捧げました。また、同時期に東京ドームで行われた大規模なミサにもご招待いただき、宗教の違いを超え、生命を広く尊ぶ姿勢や被災者に寄り添う姿をわれわれにお示しくださいました。それらは融和や寛容、平和や連帯といった価値観を重んじ、世界中で核兵器廃絶や反戦などを訴え続けた教皇の取り組みのほんの一端であるのは言うまでもありません。

フランシスコ教皇の崩御は全世界のカトリック教徒の皆様のみならず、宗教界、国際社会全体にとっての大きな損失であり、私たちも深い悲しみに暮れております。

ここに心からの哀悼の意を表します。

※また、ローマ教皇庁の諸宗教対話省に弔辞をお送りいたしております。

第103回WFB執行役員会議 in ベトナム、並びに国連ヴェーサク祭

日　時：2025年5月5日～9日
場　所：ベトナム社会主義共和国英厳寺、VBU（Vietnam Buddhist Universityベトナム仏教大学）

ベトナムの英厳寺（ヴィンギエム寺）で第103回WFB執行役員会議が行われ、戸松義晴WFB執行役員、日比野郁皓WFB顧問、本会国際部2名が出席しました。

まずWFBの事業報告がなされ、続き会計報告がなされました。その後、今後のWFBの運営方法について、予算面や大会ホストの負担軽減方法などが話し合われました。また、ミャンマー地震の支援状況、第31回世界大会への寄付金の勧募状況が報告されました。

全日本仏教会からは今年9月5日から7日にかけて大阪で行われる、第104回WFB執行役員会議の内容詳細をご案内しました。会議にはインド国のラムダス社会大臣も参加しており、ブッタガヤに纏わる今後の様々な調整をお願いしました。

また今回は全国ベトナム仏教サンガ評議会からご招待いただき、あわせて国連ヴェーサク祭にも参加しました。ヴェーサク祭とは、国連において仏教では唯一認定された祭典であり、お釈迦様のお誕生と、お悟りと、ご入滅を合わせて、5月の満月の日に行われます。今年はベトナム社会主義共和国誕生50年であり、それを記念しベトナムで開催されました。大変な賑わいでベトナム仏教界の隆盛を感じました。ヴェーサク祭の期間中には、インド共和国からお釈迦様の仏舎利が2名の大臣の護衛のもと大切に招かれ、ハデン山に安置・拝礼されました。瑞雲にも恵まれ、日越仏教界の更なる友好発展を相互に確認することができました。

第47回理事会

日　時：令和7年5月15日14時～
会　場：本会会議室（オンライン併用）
議　長：日谷照應第36期理事長
出席理事：17名（20名中）
和田学英（曹洞宗・第36期事務総長）
日谷照應（浄土真宗本願寺派・第36期理事長）
里雄康意（真宗大谷派・第35期理事長）
戸松義晴（浄土宗）
秋山文裕（日蓮宗）
小林秀嶽（臨済宗妙心寺派）
舩戸俊宏（天台宗）
加久保範祐（真言宗智山派）
岩脇彰信（真言宗豊山派）
岡野正純（孝道教団）
守山雄順（聖観音宗）
一宮良範（念法眞教）
三吉廣明（東京都仏教連合会）
軽部浩史（愛知県仏教会）
長澤香静（京都仏教会）
石原伸俊（岡山県佛教会）
花岡眞理子（公社）全日本仏教婦人連盟）
出席監事：1名（2名中）
木村匡成（公認会計士）

【概要】

5月15日、全日本仏教会会議室ならびにオンライン会議室にて第47回理事会が開催されました。

開会にあたり、日谷理事長の発声により三帰依文を唱和、開会挨拶が述べられた後、理事長が議長となり議事が進行されました。

議案事項は、

①加盟団体の負担金減免について承認を求める件
②2024（令和6）年度事業報告（案）について承認を求める件
③2024（令和6）年度決算（案）について承認を求める件
④評議員会の招集及び開催について承認を求める件

を上程し、出席理事全員の賛成により承認されました。

協議事項は、

①理事長声明文「戦後80年に向けて」について賛同を求める件

を上程し、事務総局が説明し出席した理事全員が賛同されました。

報告事項は、

①理事長の職務執行状況

が報告されました。

第5回法人創立70周年記念事業実行委員会

日　時：令和7年5月29日11時～
会　場：本会会議室（オンライン併用）
出席委員：
和田学英（事務総長）
伊藤道仁（曹洞宗）
渡邊弘文（浄土真宗本願寺派）
石井正道（真宗大谷派）
西　央成（浄土宗）
坂詰秀正（日蓮宗）
井上聖憲（高野山真言宗）
西村智秀（天台宗）
平野哲央（真言宗智山派）
吉田真澄（真言宗豊山派）
熊田秀海（福島県仏教会）
鈴木義俊（山梨県仏教会）
茶円宥勝（島根県仏教会）
小川淳詩（公財）仏教伝道協会）
掬池友絢（学識経験者）
村瀬友洋（学識経験者）
鈴木健太（学識経験者）
金原円応（学識経験者）

【概要】

定刻になり開会。周年記念事業事務局長に曹洞宗片野隆道氏の就任報告。和田学英委員長の発声にて三帰依文を唱和、続き、挨拶。事務局より配布資料の確認後、総務部会並びに財務部会開催の為休憩。休憩後、先の両部会にて承認された3点の事項について検討し、1点については承認。他2点については委員間にて意見を交換し、引き続き検討を重ねることとした。12時に閉会。

「救援基金」寄附者一覧

【2025（令和7）年3月1日～2025（令和7）年6月30日】
（時系列順・敬称略）

〈一財〉京都仏教会
浄土宗
一隅を照らす運動総本部　地球救援事務局
西山浄土宗　総本山　光明寺
公益社団法人　日本仏教保育協会
浄土宗平和協会
一般財団法人　埼玉県佛教会
川島町仏教会
真言宗大覚寺派
弘前市仏教会
念法眞教
本門佛立宗　宗務本庁
福岡県仏教連合会
大乗院檀信徒一同
長野県仏教会
島根県仏教会
田方仏教会大仁分会
山梨県仏教会
俊栄寺
西大寺　執事長　辻村泰範
医王寺　内藤隆維
慈眼寺　山科尚巳
恵光山　智韻寺
匿名希望17件

総計　9，697，913円

「賛助会員」新規入会者一覧

【2025（令和7）年3月1日～2025（令和7）年6月30日】
（時系列順・敬称略）

〈法人会員〉
日本ライフライン株式会社
株式会社セキュリティハウス
〈個人会員〉
報土寺　朝倉　俊隆
永昌寺　門脇　直哉
立憲民主党　衆議院議員　松田 功

ご入会、誠にありがとうございます。ご入会については、本会財務部までお問い合わせください。

第9回花まつりデザイン募集

応募締切
2025年
9月30日(火)
まで
※当日消印有効

募集要項

第8回花まつりデザインを使用したポスター・絵はがき

ポスター大賞作品（一般）

ポスター大賞作品（満12才以下）

絵はがき大賞

応募資格
プロ・アマチュア問わず、すべての方に応募いただけます。
（ただし、作品採用の場合、修正や転用に応じられること）

応募条件
未発表のオリジナル作品で、仏教行事である「花まつり」を題材として自由に作品を描いてください。なお、作品に文字は入れないでください。
（例：お釈迦さまに甘茶をかける場面、ご誕生をお祝いする場面、寺院の行事やイベントの場面など）

作品規定
素材・画材・技法は自由（デジタル作品も可）、立体物は不可
応募する作品は、下記のサイズを参考に制作してください。（複数応募可）

●募集作品サイズ●	用　　紙：A3サイズ以上（297mm×420mm 以上） デジタル：300dpi以上（15MB 以上、5000×7000ピクセル 以上）

審査方法
11月に審査会を開催し、大賞作品には主催者より連絡します。
審査に関しての電話やメールでの問い合わせはご遠慮ください。

応募方法
本会webサイトより応募用紙をダウンロードし必要事項を明記の上、1作品につき1部同封してください。作品は折り曲げずに（筒状は可）郵送してください。
（デジタル作品もカラー出力後、郵送にて受付となります。）

作品送付先・お問い合わせ

公益財団法人 全日本仏教会 広報文化部
〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館2階
TEL:03-3437-9275　FAX:03-3437-3260　E-mail:kouho@jbf.ne.jp

全日本仏教会　検索
https://www.jbf.ne.jp

公益財団法人
全日本仏教会
WFB（世界仏教徒連盟）日本センター

発行人　和田学英
発行所　公益財団法人 全日本仏教会
〒105-0011　東京都港区芝公園4-7-4 明照会館2階
TEL：03-3437-9275　FAX：03-3437-3260
e-mail：info@jbf.ne.jp
2025年8月10日発行　第666号